

学校評価について

学校評価とは

学校評価とは、川内市医師会立川内看護専門学校が、学校活動全般について自己改革を行うとともに、学生を専門職業人として育成できる教育に向き合い、学校の設置目的を達成するために行う評価のことです。

学校評価は教育機関としての機能を包括的に判定する学校関係者評価と、教員による教育方法と内容の評価である教員自己評価からなっています。それぞれの評価は下記の通りです。

令和元年度の取り組みと評価

<学校関係者評価委員会>

令和2年3月25日(水)：第5回学校関係者評価委員会は、新型コロナウイルス感染症予防のため委員各自で評価
評 価 者 ： 学校関係者評価委員6名

以下評価コメント(一部抜粋)

「I 教育理念・目的・人材育成像」について

地域に貢献する看護師の育成を目指し、令和2年度からの地域性を活かした選択科目の導入に対しても評価できている。PR活動を継続し、地域住民や保護者に対しても学校の理念・目的等を周知してもらう必要がある。

「II 学校運営」について

目的に沿って適切に運営され、令和元年度より実習施設と学生間のみでなく、学生と学校間で個人情報に関する誓約書を取り交わしている。更にこれからの時代、医療情報システム化(HIS:hospital information system)等に、もっと時間をかけ重視してもらいたい。

「III 教育活動」について

教育課程で学年別到達目標が策定され、2022年に向けてカリキュラム検討委員会を立ち上げ活動していることは良い。国家試験対策がカリキュラムの中に位置付けられていないことに対し改善策を検討して欲しい。

「IV 学修成果」について

就職率・資格取得率の向上では、1学年だけで評価ができない。卒業生に対するの追跡調査等は現在実施していないが、これからの教育活動のために改善してもらいたい。

「V 学生支援」について

進路・就職に対しては、評価は現段階ではできないが、学生の目標にもつながるため早期に支援体制を作ってほしい。また、保護者との連携や未成年者や若年齢の学生には、適切な時期に適切な介入ができることが望ましい。

「VII 学生募集」について

オープンキャンパスや学校訪問は積極的に実施できている。今後も学生募集は少子化もあり困難さは継続するので広報活動時の反応や状況を把握して改善できるよう努めてほしい。

「IX 社会貢献・地域貢献」について

学校祭を開催し、多数の地域の方が参加していた。ボランティア参加の意識づけを行い、地域の行事等にも参加できている。研修会講師の受託等を積極的に実施し、学校施設を活用した公開講座等を期待している。

全体を通して、今回は個人評価となったため細かな情報交換ができなかったが、今後は、ICT化等の促進、広報活動の充実、進路・就職活動の支援、地域への貢献、卒業生への支援体制等が課題である。

学校関係者評価委員会、大項目評価の平均値(令和2年3月25日)

5点満点評価

評価項目 (*評価大項目及び付随する小項目内容・項目数)	H27 年度	H28 年度	H29 年度	H30 年度	R1 年度
	平均 評点	平均 評点	平均 評点	平均 評点	
I、教育理念・教育目的・人材育成像 *学校の理念・目的・育成人材像は定められているか等 5項目	5.0	4.5	4.8	4.8	4.4
II、学校運営 *目的等に沿った運営方針が策定されているか等 8項目	5.0	4.8	4.9	5.0	4.5
III 教育活動 *目標の設定、教育方法と評価、資格試験・国家試験教職員について等 14項目	4.6	3.8	4.2	4.6	4.2
IV 学修成果 *資格取得率の向上が図られているか、卒業後のキャリア形成への効果を把握し 教育活動改善に活用しているか等 5項目	2.6	2.5	2.3	2.4	2.6
V 学生支援 *進路・就職に関する支援体制は整備されているか等 8項目	4.2	4.4	4.1	4.2	3.3
VI 教育環境 *施設・設備は、教育上の必要性に対応できるよう整備されているか等 3項目	5.0	5.0	4.7	5.0	5.0
VII 学生募集 *学生募集活動は、適正に行われているか等 4項目	5.0	4.9	4.8	4.8	4.6
VIII 法令等の遵守 *法令、専修学校設備基準等の遵守と適正な運営等 4項目	4.2	4.8	4.8	4.7	4.8
IX 社会貢献 地域貢献 *学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献・ボランティア活動をしているか 3項目	3.6	5.0	4.7	5.0	4.5
総項目平均評価点	4.4	4.4	4.4	4.5	4.2

教員自己評価 (令和2年1月末実施)

<教員自己評価>

5点満点評価

各評価内容別平均値での比較		H26	H27	H28	H29	H30	R1
I、教育課程 教授活動	1. 授業	2.7	3.4	3.4	3.4	3.4	3.8
	2. 実習	2.9	3.4	3.4	3.3	3.3	3.5
	3. 学級運営・指導	3.2	3.6	3.5	3.4	3.3	3.5
	4. 資格試験	3.0	3.3	3.3	3.3	3.2	3.1
	5. 行事・他	3.5	3.8	3.7	3.4	3.4	3.8
II、研究・研修	6. 研究・研修	2.3	3.2	3.3	3.2	3.4	3.3
III、組織運営 広報活動	7. 組織運営	3.3	3.7	3.7	3.4	3.6	3.6
	8. 学生募集	2.5	3.1	3.2	3.4	3.1	3.5
	9. 施設設備	2.8	3.5	3.6	3.5	3.6	3.9
総合平均点		2.9	3.5	3.5	3.4	3.4	3.5

- 令和2年1月末実施

教員自己評価では、「Ⅰ,教育課程・教授活動」が21項目、「Ⅱ,研究・研鑽」が3項目、「Ⅲ,組織運営・広報」が11項目、3分野35項目について5段階評価を行い、自己の取り組みの改善を図っています。

令和元年度教員自己評価結果（一部抜粋）

総合平均点の変化は、ここ3年間はほぼ横ばいで、バランスが取れている。

1. 「教育課程・教授活動」に関しては、総合評価は年々上昇してきている。今年度に入りスーパーバイザーより授業計画指導を受け授業形態の工夫や学生の理解度を促進しながら、授業をすすめることができた。
2. 「実習」に関しては、全項目に上昇が見られた。今年度、実習は6日間しか実施していないため準備等には十分に時間をかけることができ、学生個々のレディネスに合わせた指導ができた。次年度からは、実習時間も増えるため必要なオリエンテーションを吟味し、効果的に実施していく。
3. 「学級運営・学生指導」に関しては、多少の増減は見られる。今年度より担任制をやめ、係担当制を実施したが、十分な準備のないままのスタートだったこともあり、期待した大きな効果は見られなかった。今後は学生が安心して学習に臨めるような学級環境を整える必要がある。
4. 「資格試験」に関しては、国家試験担当が学習を進めていたが、教員間での対策等は実施されていなかった。次年度は、計画的に取り組む。
5. 今年度は、学校祭を実施し大きな効果があった。学生の主体性の育成や地域との交流など予想以上の結果をもたらした。次年度は、学校行事として位置付け学生をバックアップしていく。
6. 「研究」は計画的に進めることができなかった。また研修参加もばらつきがみられた。均等に教員が参加でき、学生に質のいい教育を提供したい。
7. 「組織運営」としては、教員間の連携が図れるような組織作りに努めたい。
8. 「学生募集」は、新聞への掲載、電車内での掲示なども試みたが、入試時のアンケートの結果は低い。HPは効果的であるが、最新版に更新できてないこともある。今後はホームページの充実、社会人を対象にしたナイトガイダンスなども取り入れていく。
9. 物品台帳作成に着手できた。また、教務室を教員の学習しやすい環境に改善する計画がある。教員のモチベーションを上げ、学生が教務室の中で相談などができるよう改善していく。

令和2年度は、2学年が揃い、新たな選択科目も始まる。2022年のカリキュラム改正に向けての準備と現在のカリキュラムの内容を更に充実させ、専門職業人の育成に努めていきたい。